

Campus Life

No.185 2025.3



国際総合政策学科 鈴木和信ゼミナール
～Jリーグアスルクラロ沼津との連携の様子～



国際総合政策学科 矢嶋敏朗ゼミナール
～阪急交通社と連携し1泊2日の三島ツアーを企画した様子～



海外留学
～フィリピン エンデラン大学認定留学の様子～



～中国語スピーチコンテストの様子～
(令和6年12月15日開催)

国際関係学部TOPICS

国際関係学部公式 Instagram。

Instagram でしか発信できない本学の日常や沢山の魅力を配信しています。

学生インフルエンサーも活躍中！

「フォロー＆いいね」をお願いします。





日本大学国際関係学部長

渡邊 武一郎

キャンパスから見上げる白銀の富士山に季節の移り変わりを感じるとともに、学生の皆さん、そして保護者の方々とともに学事日程を無事に過ごせた有難さを感じています。

コロナ禍で停滞していた国際交流も着実に復旧し、今年度前学期には韓国の世宗大学から2名、慶熙大学から1名、中国の同済大学から1名、ドイツのベルリン自由大学から2名、シンガポールのナンヤン理工科大学から1名、合計7名が国際関係学部での留学生生活をスタートしました。また、5月にはニューヨーク州立ストーニーブルック大学短期研修団が訪れ、約1か月間にわたり日本語・日本文化研修プログラムが実施されました。バ

ディプログラムの学生を中心に、留学生たちとの交流を深めることができました。また、一般社団法人三島市観光協会と観光振興の産学連携事業に係るパートナーシップ協定を締結し、学生が主体となった三島市の観光振興の活性化に取り組みます。グローバル観光コースの学生には是非積極的に参画して欲しいと思います。

6月には、三島駅北口校舎にて日本大学ワールド・カフェ（N-MIX）が開催されました。ワールド・カフェとは、日本大学のすべての学部（16学部）と短期大学部（三島校舎、船橋校舎）に学ぶ約16,000人の学生が、学部・校舎の垣根を越えて集う学部間交流のイベントです。参加した学生の皆さんは、他学部の学生たちとの交流を通して、新たな視点や多様な考え方に触れ、日本大学のスケールの大きさを実感できたと思います。

さらに嬉しいニュースとして、国際関係学部開設の「日本語教員養成プログラム」の国家資格「登録日本語教員」資格取得に係る経過措置の適用が確認されました。この措置により、日本語教員養成プログラムに学ぶ学生は、国家資格「登録日本語教員」試験の基礎試験の免除や実践研修を修了とみなす等の経過措置対象者となりました。近年、日本国内だけでなく海外でもニーズが高まり続ける日本語教員を目指す学生さんにとって、大きなサポートになったと確信しています。

9月17日には、韓国カトリック大学から1名、ドイツのベルリン自由大学から1名、アメリカのニューヨーク州立ストーニーブルック大学から1名、モンタナ州立大学ビリングス校から1名、スペインのサラマンカ大学から2名の合計6名の交換留学生を受け入れ、国際関係学部らしい後学期が始まりました。

10月には2日間にわたり富桜祭が実施され、学生のゼミや部活動・サークルによる発表他、趣向を凝らしたさまざまなイベントにキャンパスは活気に溢れました。

そして三島キャンパスの大きなニュースとして、新図書館の建設が始まりました。日々少しずつ、その姿を見せつつある新図書館棟は、事務機能を備えた管理棟との複合施設として令和7年度の完成を目指して工事が進められています。新たな建物は全面ガラス張りの美しい姿とともに優れた耐震性を備え、学生の皆さんに安全・安心な学習環境を提供します。館内中央には巨大なブックツリーが聳え立ち、アカデミックな雰囲気を演出します。また、多目的な活用が可能なラウンジや語学学習エリアをはじめとして、学生の皆さんのコワーキングスペースも確保し学びの幅がさらに広がることでしょう。さらに、これまで煩雑だった事務手続き等の窓口のワンストップ化の実現により、学生サービスの向上を図ります。新図書館棟は三島キャンパスの新しいシンボルとして、皆さんの学生生活をさらに充実させることでしょう。皆さんには積極的な活用を期待します。

令和7年度前学期スケジュール

4/1～4/4

健康診断・
ガイダンス期間

4/3 開講式

4/7 前学期授業開始

4/29 祝日授業

7/14 到達度確認期間
(14・15週目)

7/29 前学期授業終了

7/30・31
定期試験(諸課程)

8/1 夏季休暇開始

8/21・22
追試験

9/18 夏季休暇終了

9/19 後学期授業開始

第74回 富桜祭開催



富桜祭実行委員会委員長

国際関係学部
国際総合政策学科3年

栗原 智也 さん

第74回 富桜祭を終えて

本年度、第74回富桜祭を令和6年10月26日(土)、27日(日)に対面で開催いたしました。今年のテーマは「Connections ～新たなつながりの探求～」。

来場者や学生一人ひとりが、新たな出会いや発見を通じて「つながることの価値」を感じ、自分だけの特別な縁を見つけてほしいという願いを込めました。その想いのもと、実行委員会は試行錯誤を重ね、多くの挑戦をしました。芸能人企画、模擬店グランプリ、スタンプラリー、後夜祭ビンゴ大会などの人気企画を復活させ、会場は熱気に包まれました。また、ふれあい動物園の乗馬体験、自衛隊の車両展示、お寺めぐりの会、しゃぎり演奏など、幅広い世代の方々に楽しんでいただける企画を実施しました。

さらに、新たな試みとして 実行委員会メンバーが企画・運営したお化け屋敷を開催。長蛇の列ができるほどの大盛況となり、「怖かった！でも楽しかった！」という声飛び交いました。挑戦の結果、「新しい富桜祭の形を創れた」という確かな手応えを感じました。

また、富桜祭実行委員会OBの方々のご縁で JICA とのコラボ企画 を実現。国際関係学部ならではの特色を生かし、来場者に国際社会のリアルを学ぶ機会を提供することができました。こうした経験を通じ、改めて「富桜祭は多くの人々に支えられている」と実感しました。

この挑戦の積み重ねにより、第74回富桜祭には約4,500人の来場者を迎えることができました。これは単なる数字ではなく、「つながり」を求め、多くの人が集まってくれた証です。そして、何よりも実行委員会の仲間と共に駆け抜けた日々は、かけがえのない経験となりました。

運営の中では課題もありましたが、最後まで支えてくださった教職員の皆様、協力してくださった外部関係者の皆様、そして共に戦い抜いた実行委員会の仲間たちに心から感謝申し上げます。

この富桜祭が生み出した「つながり」が、来場者の皆様にとっても特別な記憶となっていれば幸いです。来年以降も、富桜祭が新たな価値を生み出す場となることを願い、ここに第74回富桜祭の報告とさせていただきます。



学生生活委員会副委員長

国際関係学部
国際教養学科

教授 有木 永子

学生生活副委員長から

第74回富桜祭は令和6年10月26日(土)・27日(日)の両日で延べ4,381名にご来場いただき、無事、盛会のうちに終えることができました。これもひとえに日頃から学生を見守ってくださる保護者の皆様、地域の皆様、教職員の皆様のお陰でございます。心より御礼申し上げます。

今期富桜祭テーマの「Connections ～新たなつながりの探求～」を体現したかのように、今年は学内展示や公演、模擬店も多く、お笑いライブをはじめとする学外からの参加者を迎え、見応えのあるイベントが開催されました。豊かなつながりを築けるようにと日夜準備を重ね、学部祭という大きなイベントを成功させられたことは、多くの参加者にとって励みになったことでしょう。そこで得た知恵や工夫のバトンは、ぜひ次年度へ繋いで欲しいと願っています。

第75回富桜祭は令和7年10月25日(土)26日(日)の2日間です。学生たちが皆様とともに実りのある時間を得られますよう、引き続きご支援ご協力を賜りたくよろしくお願い申し上げます。



ゲストの三島市マスコットキャラクター みしまるくんとみしまるこちゃん



フラダンス部の発表



穴戸ゼミナールの展示の様子



第74回富桜祭実行委員会

国際関係学部・学科だより

国際総合政策学科 平和祈念展示資料館と領土・主権展示館への学外研修 ―

助教 笠原 孝太

令和6年6月29日(土)、国際総合政策学科の学外研修として、都内にある平和祈念展示資料館と領土・主権展示館を訪問しました。「戦争と平和」「領土と主権」など、主に国際関係コースの分野に興味のある、1年生から4年生までの約20名の学生が参加しました。

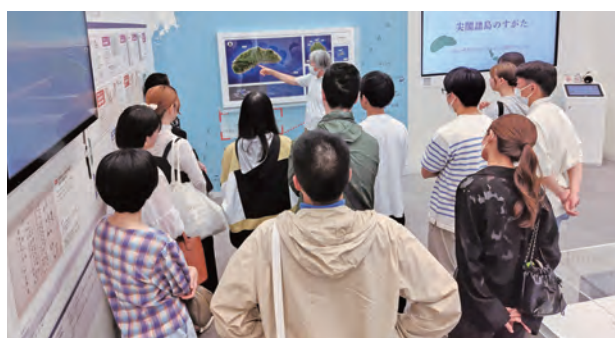
平和祈念展示資料館では、解説員に展示資料を解説していただき、戦争の悲劇と平和の尊さを学びました。同館では戦中・戦後の「兵士」「戦後強制抑留者」「海外からの引揚者」の三者の視点からの戦争体験を学ぶことができました。

領土・主権展示館でも、解説員に展示資料を解説していただきました。日本の抱える領土問題として「竹島」と「北方領土」にかかわる歴史と日本の主張を、豊富なパネルや映像資料を中心に学ぶことができました。また、尖閣諸島についても地誌を学ぶことができました。

授業や教科書の中だけでなく、多くの資料を目にすることで、その歴史や現在進行形の問題をより深く理解することができます。参加した学生たちは、平和の尊さと領土・主権の重要性を強く認識したことでしょう。



平和祈念展示資料館での研修の様子



領土・主権展示館での研修の様子

国際関係学部・学科だより

国際教養学科 ゼミナール紹介 ―

准教授 笹生美貴子

このゼミでは、東アジア圏の文化や文学について扱っています。

主に『竹取物語』『源氏物語』『百人一首』に注目しています。『竹取物語』はグローバルに富んだ作品でもあります。5人の貴公子達が探す宝物は、蓬萊の玉の枝や火鼠の皮衣など、日本にはないものばかりです。『源氏物語』にも七絃琴など渡来楽器をはじめとした外来品の数々が描かれています。和歌には、異国の故事が踏まえられているところもあります。ゼミ生たちには、個々の発表を通して疑問点や物語・和歌の解釈について様々な角度から検討してもらい、それをもとに討論するなどして知識を深めています。

さらに、翻刻作業に挑戦する時間も盛り込んでいます。まずは字母についての学習をして、その後に影印本『竹取物語』の冒頭文の翻刻作業を行いました。平仮名の大元は全て漢字になります。例えば「む」の字母は「武」、「か」の字母は「加」、「し」の字母は「之」となります。漢字文化の歴史についても着目しつつ、多角的な視点から学びを深めています。



『竹取物語』(影印本)の翻刻作業に挑戦している様子



ゼミナールでの発表風景

短期大学部・学科だより

ビジネス教養学科 講義紹介「キャリアデザイン」

教授 佐藤 聡彦

「キャリアデザイン」の授業では、2回の講演会を行いました。1回目は「キャリアを考える講演会」と称し、三島市に住む駄菓子屋経営者で、書籍編集を主として活躍されている樋口かおる様を招きました。SNSを利用した情報収集・取材・編集・出版までのテクニックや、駄菓子屋経営についてなどのお話をいただき、学生にも好評でした。2回目は大手食用油会社役員の盛田隆行様を招き、食用油業界事情に加え、昨今話題になっているチョコレートの供給における企業努力などを学術講演会にて説明して頂きました。

どちらの講演者も筆者が招いたのですが、大学や学問とは全く関係なく知り合いました。樋口様とは、あるスポーツ少年団での活動にて挨拶を交わしたことが最初です。その後の雑談の中から編集者でもあることを伺い、またその手法が、大学での知的追求の方法と大きく重なることから、講演をお願いしました。盛田様は、筆者の長い友人ではありますが、本学農獣医学部（現在は生物資源科学部）卒の校友であることを知ったのはつい最近の事であり、それから本学科での講演をお願いするようになりました。

以上のような招聘に至る経緯も講演者紹介時に学生に伝えることで、キャリア形成においても人との「出会い」が大切であることを両方の講演で示すことが出来ました。



第1回講演会「キャリアを考える講演会」の様子



第2回講演会「食用油業界の私の体験」の様子

短期大学部・学科だより

食物栄養学科 令和6年度 卒論発表会

准教授 篠原 啓子

令和7年2月19日(水)に短期大学部（三島校舎）食物栄養学科2年生の卒業論文発表会が開催されました。

学生たちは、1年から半年以上かけて、それぞれのゼミで行った調査や研究、活動の成果を論文にして発表します。この活動をわずか5分のスライドにまとめることは容易ではありませんが毎日頑張っており、取り組んでいました。

それぞれの教員に指導を受けながら、授業とは異なり、夜遅くまで残って実験をし、ゼミによっては外部の方々との交流を深めながら行う活動は、大変なこともあったと思います。自分たちで考えて興味を持ったことの情報を集め、計画を練り、発表するというゼミでの活動の経験はきっと将来に役立つ能力を育んだことでしょう。それぞれ特徴のあるテーマの発表は、ゼミを選択しなかった同級生や1年生も興味深く熱心に聞いていました。ゼミ活動は大学生活の集大成でもあり、質疑応答にしっかり対応し、多くの発表が続く中でも、聴衆の関心を引きつける工夫が見られるなど、学生の成長が感じられる発表会となりました。

	テーマ
石川ゼミ 13名	・カワノリを利用した水環境学習の効果に関する研究 ・世界の食中毒統計資料による衛生状況の比較 ・「芝川海苔」を使った商品開発 ・芝川流域におけるカワノリの成長に関する研究 ・ミカンの無機栄養成分に関する研究
篠原ゼミ 2名	・多文化共生の中での食育ー清水西幼稚園での食育活動報告ー
葛城ゼミ 6名	・三島市地場農産物を使用した脂質異常症予防メニュー提案
上田ゼミ 5名	・タチウオの付着細菌に関する研究 ・ゴマサバに寄生しているアニサキスに関する研究 ・東伊豆産イサキにおける付着細菌相の季節変化

卒業論文演題



卒業論文発表会の様子

学生の皆さんも保護者の皆さんも

大学生活の大きな関心事は将来のキャリア(就職)

このコーナーでは、大学4年生、短大2年生で全国のような業界への内定を勝ち取った方の手記をお知らせします。就職活動時「日本大学」は武器となります。しかし、大切なのは学生本人の夢（キャリアビジョン）や就職活動時の努力です。是非ご参考にしてください。

国際関係学部
国際総合政策学科4年

松浦 春輝さん

内定先：農林水産省北海道農政事務所

国際総合政策学科は、多様なコース選択や充実したプログラムが展開されており、自分の興味や目標に合わせて学びを深めることができます。私は、広い視野を持ち、幅広い分野で活躍できる人材になりたいと考え、国際総合政策学科を選択しました。また、コース選択を2年次に行うため、1年次にじっくりと学びたい分野を探せるのも魅力の一つです。

コース選択後は、留学やフィールドワークを通じて実践的なスキルを身に付ける機会が豊富に用意されています。私は、観光や政治、そして国際関係といった多様な講義を受講し、複雑な社会問題に直面しました。特に危機感を持ったのは、地域コミュニティの衰退と食生活の変化による食料自給率の低下です。フィールドワークでは、地域住民や自治体職員の方々と関わり、この問題について話し合う機会があり、社会問題を解決し、人々の生活を支える一翼を担いたいと考えようになりました。

その中で、第一次産業を支え、地域社会や食料安全保障に関わる農林水産省、特に地域住民と近い距離で政策に携われる農政事務所に大きな魅力を感じました。北海道農政事務所を選択した理由は、大学で培った知識や経験を生かし、現場の視点を大切にしながら社会に貢献できると感じたからです。

将来は、新規就農者への支援に取り組みたいと考えています。日本は、農業従事者の高齢化が顕著に進み、農業経営世帯が減少傾向にあり、この問題は喫緊の課題となっています。そのため、若者が農業に興味を持ち、担い手として活躍できるような政策が重要です。近所の農家の方々から直接お話を伺う中で、後継者不足は深刻な課題だと考えています。国家公務員として農業政策に携わり、若者が農業を職業として希望するような社会を実現したいです。また、食料自給率の安定化にも取り組み、国民が安心して暮らせる持続可能な社会を築く一助になりたいと思います。



国際関係学部
国際総合政策学科4年

伊藤 未奈さん

内定先：株式会社静岡中央銀行

国際関係学部を選んだ理由は、英語に興味があったこと、高校生の時に訪れたフィリピンで貧困と経済格差を目の当たりにしたことがきっかけです。また、小学生・高校生の時に、ボランティア活動をした際には、在日外国人や子どもたちが生活や勉強の中で多くの壁に直面していることを知り、国際関係に関する知識を身に付けることで、自分にもできることがあるのではないかと考えたためです。また、地元が静岡県ということもあり、実家から通えることも選んだ理由の一つでした。

ゼミナールでは、異文化コミュニケーションと多文化共生について学んでいます。フィールドワークを通じて、実際の在日外国人の暮らしについて理解を深めることができました。

また、ゼミナールでゼミ長を務めた経験や、アルバイトでの接客を通じて、人と関わることの楽しさを感じ、人の役に立つ仕事をしたいと思い、静岡中央銀行を志望しました。

学部の就職支援として、自己分析講座やSPI対策講座が役立ちました。就職活動は初めての経験で、右も左もわからない中、講座でのワークを通じ、自己分析を進めることができました。SPI対策講座は、問題を繰り返し解くことで、問題への苦手意識を減らし、実際の選考の際にも落ち着いて臨むことができました。

内定先では、地域の方々と多くの場面で関わる機会があります。お客様から私に相談してよかったと思っていただけるように、勉強を続け、知識を身に付けたいと考えています。人と人とのつながりを大切にし、地域の方々の役に立つ存在になりたいです。

国際関係学部の魅力は、観光・ビジネス・異文化コミュニケーションなど、様々な分野を勉強することができ、物事を多角的に考える力を養えることです。高校生の頃の私のように、外国語を勉強することに加えて、何か別のことにも興味がある方に勧めたいと思います。



国際関係学部
国際教養学科4年

大竹誠一郎さん

内定先：株式会社電通東日本

私は、中学・高校において、英語でコミュニケーションをとることが好きになり、将来は海外で働くことを目標に、本学部を選択しました。本学部に進学する前は、上記の夢でしたが、学部での学びや研究を通じて、消費者にモノの魅力や企業の想いを届ける『感動体験』を設計することへと、私の夢は変わりました。

大学では、九州地方の道の駅の研究に注力しました。この研究内容を選んだ理由は、道の駅が人やモノの流通が集中する場所だと考えたからです。研究においては、九州地方の全ての道の駅を2週間で訪問し、現地住民の方々の声を聞きました。また、博多でたくさんの屋台を発見したことから、九州地方は韓国の文化の影響を受けているのではないかと仮説を立てました。そして、韓国の市場が日本の道の駅の類似例だと推測し、実際に韓国を訪れ、1週間かけて全ての市場を回り、人々と対話するという貴重な経験をしました。

この経験を生かし、就職活動では、『地域密着』を軸に企業を探しました。その中でも電通東日本は、私の夢に一番近い存在だと考え、入社を決めました。また、地域密着という企業の強みを生かして、地域社会、地域住民の生の声をビジネスに反映することができる点が魅力でした。将来的には、消費者にモノの魅力や企業の想いを届ける『感動体験』を設計することが私の目標です。この夢の実現のため、研究内容を生かし、地域の消費者や顧客企業の生の声を聞くことで、新たな価値創出に挑戦したいと考えます。

国際関係学部は、多様なバックグラウンドをもつ人が集まる学部です。私は、異なる価値観、文化に触れることで、まだ知らなかった世界を知り、自分の『好き』に出会うことができました。そして、ゼミナール研究や講義を通して、『好き』を深化させたことで、今後は自分にしかないアイデアを生み出せるのではないかと信じています。



国際関係学部
国際教養学科4年

角屋 有咲さん

内定先：明治安田生命保険相互会社

私は、幼い頃から旅行が好きで、海外に行くことを夢見ていました。そのためには、様々な言語や文化を学ぶことが必要だと思い、国際関係学部を選びました。国際関係学部には、多くの留学生が在籍し、海外経験豊富な先生も多く、他の国の言語や文化に自然と多く触れる機会があります。また授業カリキュラムが充実しており、中には、授業を英語で進めるものもあり、スキルアップできると感じました。英語以外に、中国語やフランス語、韓国語など様々な言語の授業があり、世界に目を向けて視野を広げられる環境が整っていると感じています。

新型コロナウイルスの影響でゼミナールには所属しませんでした。競技ダンス部に所属し、活動に励みました。部員が主体となり、週5日ほど活動する中で出会えた仲間がかけがえのない存在になりました。大会や合宿では全国の大学と交流をすることができました。また、在部中に東京・神奈川・千葉などの東部地区の大会では5位に入賞することができ、全国大会に出場することができました。

就職活動中は、定期的に開催されていた就職支援講座を利用しました。私は2年次後期から参加しましたが、1年次も参加は可能です。早い段階で就職活動について詳しく学ぶ機会があることは魅力的でした。

将来は、地元静岡県に恩返しができるような仕事がしたいと思い、内定先を志望しました。お客様に寄り添い、サポートできるよう、知識を身に付けていきたいと思っています。地元の方々と関わる機会が多い職種のため、地元のイベントやボランティア活動に参加して地域貢献をしていきたいと考えています。

国際関係学部での4年間で、インドネシア・フィリピン・中国など計5か国を訪れ、多くのことを学び、自分の視野が広がることを実感しました。現地では、授業で学んだ英語や中国語を生かすことができ、向上心につながりました。国際関係学部は、4年間を通じて多くの国の人々と関わる事ができ、そして言語や文化を学びながら、実際に体感することができる魅力的な場所だと思います。



短期大学部 ビジネス教養学科 2年

伏見 菜帆 さん

内定先：株式会社あいネットサービス

私は中学生の頃から観光事業に関わる仕事を目標していました。地域イベントにボランティアとして何度も参加することによりボランティア活動にやりがいを感じるようになり、運営側になって地域の魅力を広げていきたいと考えました。地域の特産品や地場産業を発展させていくために、ビジネスについて深く学び、知識を身に付けたいと思い、短期大学部（三島校舎）ビジネス教養学科に入学しました。

内定先である株式会社あいネットサービスを志望した理由は、人の支えになる仕事をしたいと考えたからです。これまでは、地域のボランティア活動の中で、人の支えになれることを模索していましたが、葬儀という悲しいイメージのある場面に寄り添い、大切な人を見送るお手伝いがしたいと思いました。故人に対して、お別れだけでなく感謝を伝えられる最後の大切な機会に、ご遺族の方々に寄り添い、支えられる人材になりたいです。

ビジネス教養学科は、科目を自由に選択できるため自分の興味があることや将来を見据えた勉強をすることができます。また、先生との距離が近いことも魅力です。気軽に質問ができ、進路に関する相談にも真摯に向き合ってくれます。そして2年間という短い期間で学ぶことを通して、時間の使い方や優先順位のつけ方を工夫することで、タイムマネジメントを習慣化することができます。ビジネス教養学科で身に付けた知識と経験を生かして、寄り添う力を大切にしながら仕事に向き合い、成長していきたいと思います。



短期大学部 食物栄養学科 2年

中村 有里 さん

内定先：静岡赤十字病院

私は2年生の夏休みから本格的に就職活動を始めました。それまでも学校で行われる企業説明会などに参加しましたが、やりたいことが明確ではなく行き詰まっていた。就職指導課とハローワークに行き、自己分析を進めましたが最後までやりたいことが分かりませんでした。就職指導課の方から、取得した資格や自分にできそうな仕事を考えてみてはどうかの助言をいただきました。栄養士が情報処理技能試験の資格が役立つような一般事務職か迷っていたところ、学校に届いた静岡赤十字病院の求人票を見つけ、私が栄養士としてどこまでできるのか、挑戦してみることに決めました。学校での成績はそれなりであっても自信がなかったので、自分自身を知るためにも、学んだことを忘れない間に栄養士をやってみようと思ったからです。

私は一人暮らしや社会人の経験がないので、今でも心配事は尽きません。まずは、仕事を早く覚えしっかりとこなしつつ、栄養士として自身の生活習慣も乱れないようにすることが目標です。ただ業務を繰り返す生活を送るのではなく、日々理想の自分になれるよう目標を持って行動することを意識しようと考えています。

最後に、学生生活を送る中で1番良かったことは、相談できる人がいたことです。私には自分を包み隠さず相談できる友人がいます。彼女がいてくれたことが、就職活動においても大学生生活においてもとても心の支えになりました。また、大学やハローワークには初歩的なことであっても丁寧に対応してくださる方々が沢山おり、三島キャンパスはとても恵まれた環境だと思います。ぜひ、友人や先生など1人だけでも自身を曝け出して相談できる関係を築いてみてください。きっと素敵な大学生活を送れることかと思います。



異文化交流会

国際関係学部 専任講師 大井川朋彦

令和6年12月10日(火)に三島駅北口校舎の食堂にて、学生生活委員会主催による異文化交流会が行われました。この会は、世界各国の料理を囲みながら留学生と交流を深め、異文化に対する興味・関心を高めることを目的としています。51名の学生が参加し、そのうち11名が留学生でした。

参加者はグループに分かれ、自己紹介やクイズ、文化の違いに関する質問表を使用したアクティビティーを行いました。質問表の内容は、しきたりやマナー、料理、お祭り、習い事、スポーツ、伝統的な物事などに関するものでした。このアクティビティーにより得られた文化の違いに関する情報は、各グループのリーダーに発表してもらい、全体で共有しました。

料理はビュッフェ形式で、日本、イタリア、ドイツ、アメリカ、トルコ、韓国、中国の料理や飲み物に加え、ビーガン向けの料理やオーガニックの飲み物が提供されました。食器などは、環境に配慮したものを使用しました。



保健室・学生支援室より

「大学に保健室があるなんて知らなかった！」と言われることがありますが、実は大学にも健やかで快適な学生生活を過ごせるように保健室を開設しています。本校舎12号館と三島駅北口校舎にそれぞれ看護師が常駐し、皆さんの健康をサポートしています。

【保健室ではこんなことをしています！】

＊怪我や急病が発生した場合の応急処置

学生の皆さんが通学途中やキャンパス内で怪我をした時や、発熱・腹痛などの体調不良に対応します。頭が痛い、気持ちが悪い時にはベッドで休養でき、症状に合わせた医療機関・診療科の紹介や受診方法も案内しています。また医療機関との受診連携や緊急時の付き添い等のサポートも行います。

＊学校医（内科・精神科）・看護師による健康相談

病院を受診するほどではないけれど、眠れない、疲れが取れない、食欲がない、ストレスを感じるなど気になる症状や心配が続く場合に相談に乗ります。学校医との面談で要受診の場合は、紹介状発行・医療機関を紹介しています。

＊定期健康診断による健康管理

健康状態の把握により、病気の早期発見、予防に繋げ、学生自身が健康に目を向け自己管理できるよう支援しています。もちろん持病のある学生の状況を把握し、必要な支援を行います。

＊学校感染症への対応

感染症流行状況の把握と情報発信は欠かせません。感染症予

防対策と注意喚起や療養中の症状に合わせたアドバイスをしたり、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ等に罹った時の申告や手続きのサポートをしています。（授業欠席届に関する手続きも大事です。）

※保健室は医療機関でないため、解熱鎮痛薬や胃腸薬など医薬品の取り扱いをしていません。常備薬をバッグや財布などの中に携帯しておきましょう。

一人暮らしやアルバイトなどで不規則な生活を続けてしまうことも少なくありませんが、大学では時間割などのスケジュール管理を全て自分で行うこととなりますので日頃の体調管理がとて重要で。また、心身の成長に伴い、心が揺れ動くことが多い年頃のため学生生活の悩みや困難から体や心に不調を来たすこともあります。保健室では学生支援室（コーディネーター、カウンセラー）と連携を図り、メンタルヘルス支援も行っていますので、一人で悩まずいつでも相談してください。



保健室



学生支援室

【健康相談について】

保健室・学生支援室では、学生の皆さんが充実したキャンパスライフを送れるようにサポートを行っています。生活様式や取り巻く環境の変化により、眠れない、疲れが取れない、食欲がない、ストレスや不安を感じるなどの気になる症状や心配なことが続く場合は、一人で悩まずにいつでも相談してください。＊学生に関する保護者からの相談も受け付けています。



予約制

からだの健康に関する相談

【学校医】毎月第1・3水曜日
15:00～16:00

予約制

臨床心理士によるカウンセリング

火～金曜日
10:30～16:00

予約制

こころの健康に関する相談

【精神科医】毎月2回

※日程等の詳細についてはLiveCampusUの「学内連絡（学生課）」を確認してください。

お問合せ

【保健室】本校舎12号館1階 電話：055-980-0851
三島駅北口校舎 電話：055-980-1925

【学生支援室】本校舎12号館1階（保健室隣）
電話：055-980-0850

三島キャンパス 告知板

【保護者配信メール（さくら連絡網）未登録者の皆様へ】

本学部では、さくら連絡網にご登録済みの保護者の皆様へ原則毎月一度、大学から情報を発信しております。ご登録いただきますとLINE等で情報を受け取ることが可能となります。未登録で新規登録をご希望の場合は、庶務課（電話 055-980-0801）へお問い合わせください。

▶ 配信内容例

「台風接近による荒天が予想されるので、
令和〇年〇月〇日の講義は休講します。」
「令和〇年〇月〇日に成績発送を行いますので、
ご確認をお願いします。」
「〇〇ガイダンスが
令和〇年〇月〇日に実施されます。」